

6年後に達成する目標 （健康課題を踏まえた検査値等の改善目標）		収縮期血圧が130mmHg以上の加入者数の割合を令和4年度よりも減少させる（40歳以上59歳以下）【令和4年度：31.7%】				
年度	R 6	R 7	R 8（中間評価）	R 9	R10	R11（最終評価）
目標	31.5%	31.3%	31.1%	30.9%	30.6%	30.3%

- 上記目標における各年度の結果に対する評価、要因検証等を行い、今後の対策を整理する。
※1）自己評価欄は、下記を目安に判断し、A B C Dで評定すること
A：目標値の120%以上 B：目標値の100%以上120%未満 C：目標値の80%以上100%未満 D：目標値の80%未満
※2）記入欄が不足する場合は行を追加すること。なお、列の追加、幅の調整は行わないこと。

R 6	目標	31.5%	実績		自己評価	B
	要因検証・今後の対策	【要因検証】 ●上期の収縮期血圧130mmHg以上の加入者数の割合は、計画策定時（R4年度）から31.4%となった。 ●上期は、事業所の健康づくりの促進やヘルスリテラシーの向上等を目的に、健康保険委員の委嘱率向上の取り組みに注力した。特に、小規模事業所は委嘱率・健診受診率ともに低い傾向にあることから、小規模事業所に特化した文書勧奨を実施したことで、上期において1,340人増加（昨年度年間比4.5倍）、全体で1,393人増加となった。 ●ハイリスクアプローチとして特定保健指導を実施するに当たり、直営においては初回・実績評価ともに前年度同期比と同程度である一方、外部委託機関においては微増ではあるものの初回+10件、実績評価は+53件と前年同期比を上回った。 ●未治療者受診勧奨（0次勧奨）においては、健診機関へのアナウンスと具体的な介入に向けたデータ分析を行った（R7年度実施予定）。 【今後の対策】 ●健康保険委員勧奨を継続的に行うとともに、当該委員を活用した健康情報発信の強化と、健診受診率向上の取り組みを推進する。 ●関係団体や自治体、健診機関との連携を図るため継続的な働きかけを行い、ポピュレーションアプローチの一環として連携事業や広報等を行っていく。 ●各種事業（健診・特定保健指導・コラボヘルス等）のKPI達成に向けて、分析データや事業所アンケート結果を活用し、エビデンスに基づいた取り組みを進める。				
R 7	目標	31.3%	実績		自己評価	
	要因検証・今後の対策					
R 8	目標	31.1%	実績		自己評価	
	要因検証・今後の対策					
R 9	目標	30.9%	実績		自己評価	
	要因検証・今後の対策					
R10	目標	30.6%	実績		自己評価	
	要因検証・今後の対策					
R11	目標	30.3%	実績		自己評価	
	要因検証・今後の対策					

- 次頁より、各分野のK P Iに加え、地域・職域において重点的に予防・改善すべき疾患、当該疾患を予防・改善するために着目すべき健診項目、着目した健診項目の検査値に影響を及ぼしている生活習慣、当該生活習慣を改善するためにどのような対象者にどのようなハイリスクアプローチ及びポピュレーションアプローチを行うかを整理し、個々の取組、具体策及び目標値を計画に記載する。
※3）個々の取組における具体策は、実施年度の支部事業計画に記載すること。
※4）取組欄を追加する場合は、取組欄（行）をコピーして使用すること。また、記入欄が不足する場合は行を追加すること。なお、列の追加や幅の調整は行わないこと。
※5）K P I 達成に向けた取組や具体策は、本計画には記載せず、実施年度の支部事業計画に記載すること。
- また、各年度の終了後には、取組の目標における各年度の結果に対する評価、要因検証等を行い、今後の対策を整理する。

健診													
K P I ①	生活習慣病予防健診実施率	目標値	各年度の K P I	R 6	R 7	R 8	R 9	R10	R11				
		実績		68.7%									
K P I ②	事業者健診データ取得率	目標値	各年度の K P I	R 6	R 7	R 8	R 9	R10	R11				
		実績		11.4%									
K P I ③	特定健診実施率（被扶養者）	目標値	各年度の K P I	R 6	R 7	R 8	R 9	R10	R11				
		実績		28.7%									
要 因 の 検 証 策・ 今 後	R 6	【要因検証】 上期は生活習慣病予防健診実施率36.9%、事業者健診データ取得率3.2%、特定健診実施率13.9%であった。前年度から生活習慣病予防健診の実施件数は伸びており、付加健診拡大の相乗効果も影響していると考える。特定健診は協会主催集団健診の体制や実施内容を変更したことで受診率向上につながったが、目標達成には下期の集団健診の伸びが大きく影響する。 【今後の対策】 ・生活習慣病予防健診は、小規模事業所における健康保険委員を活用した予約体制の構築・勧奨を行い、受診率向上を目指す。 ・事業者健診においては、健診機関や事業所との連携を図り、着実な取得につなげる。R7年度においては、外部委託の仕様内容を検討し、取得率向上を目指す。 ・特定健診においては、協会主催集団健診の充実を図り受診率向上を目指す。											
	R 7												
	R 8												
	R 9												
	R10												
	R11												
地域・職域における疾患・検査値・生活習慣等を踏まえ、どのような対象者にどのようなアプローチを行うか													
No.	健	－	1	ア プ ロ ー チ 方 法	ポ ピ ュ レ ー シ ョ ン ア プ ロ ー チ	実 施 年 度 （ 期 間 ）	R6年度 ～ R9年度						
取組名称	生活習慣病予防健診実施率の低い嶺南東部における健診実施率向上に向けた取組					評価指標	嶺南東部地域における生活習慣病予防健診受診率						
						目標値	40.0%	R 6	R 7	R 8	R 9	R10	R11
						実績		37.0%	38.0%	39.0%	40.0%		
取組の目的 及び具体策	生活習慣病予防健診実施率が低い要因として、健診対象者数に対する健診機関の実施可能人数（キャパシティ）が圧倒的に少ないことが考えられる。受診機会の確保に向けて、県や市医師会との連携を図りながら、生活習慣病予防健診の実施が設備的に可能と思われる医療機関へ委託契約の打診を行い、生活習慣病予防健診実施機関の拡大を図る。併せて委託契約中の健診実施機関への働きかけを強化し、実施枠拡大を図る。												
要 因 の 検 証 策・ 今 後	R 6	【要因検証】 嶺南地域における健診状況の分析結果及びR5年度に実施した嶺南東部地域事業所へのアンケート結果をもとに作成した資料を用いて、福井県医師会、敦賀市医師会、健診機関への働きかけ（支部長による訪問勧奨）を実施。また、検診車を保有する健診機関による巡回健診の継続及び拡大実施の働きかけを行ったことで、実施体制の拡大につながった。（2日受入枠150人→7日受入枠550人） 【今後の対策】 引き続き不足地域の健診機関や医師会に対し、R6年度実施の事業所アンケート内の健診関係に関する回答結果を活用し、訪問等による継続的な働きかけを行う。また、健診機関拡大に向け、医療機関へアンケートを実施し、医療機関への訪問勧奨を実施する。その他、巡回健診実施機関に対し早期の日程調整を働きかけ、計画的な勧奨・広報を連携して実施し、実施率向上を目指す。											
	R 7												
	R 8												
	R 9												
	R10												
	R11												

No.		健	－	2	アプローチ 方法	ポピュレーションアプローチ		実施年度 (期間)	R6年度		～	R9年度				
取組名称		【追加】小規模事業所における生活習慣病予防健診の受診率向上						評価指標	小規模事業所における健診実施率							
								目標値	各年度のKPI		R 6	R 7	R 8	R 9	R10	R11
											対前年度以上					
実績																
取組の目的 及び具体策		福井支部の特徴として、被保険者の生活および事業者健診の実施率は全国と比較すると高い傾向にあるが、事業所規模別の生活習慣病予防健診実施率を比較すると、小規模事業所における受診率が突出して低い傾向にある。また、被保険者9人未満の小規模事業所の割合が全体の75%超であることから、小規模事業所の未受診者へのアプローチを行い、受診率向上を図る。														
要 因 検 証 策・ 今 後	R 6	【要因検証】 新規事業として、県事業と連携し連名による生活習慣病予防健診の受診勧奨を実施。また、事業者健診実施率の向上のため、経年的生活未受診事業所への事業者健診結果データ提供依頼の文書勧奨を実施した。その他、外部業者を活用した小規模事業所への健診結果データの取得委託事業を行ったが、健診未受診や理解を得られない等課題が多く、伸び悩んでいる状況。 【今後の対策】 ・外部業者との連携と管理を徹底し、引き続き取得率向上に向けた処理を着実に行う。 ・健康保険委員を活用した健診予約につなげる仕組みを検討・構築し、受診率向上に向けた働きかけを行う。 ・継続事業として、県との連名による生活習慣病予防健診の受診勧奨を実施する。														
	R 7															
	R 8															
	R 9															
	R10															
	R11															
No.		健	－	3	アプローチ 方法			実施年度 (期間)	～							
取組名称								評価指標								
								目標値			R 6	R 7	R 8	R 9	R10	R11
実績																
取組の目的 及び具体策																
要 因 検 証 策・ 今 後	R 6															
	R 7															
	R 8															
	R 9															
	R10															
	R11															

特定保健指導											
K P I ①		特定保健指導実施率（被保険者）	目標値	各年度の K P I	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	
			実績		25.5%						
K P I ②		特定保健指導実施率（被扶養者）	目標値	各年度の K P I	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	
			実績		45.3%						
要 因 の 検 証 策・ 今 後 の	R 6	【要因検証】 上期は継続して被保険者の特定保健指導の全件案内を行い、案内利用率が86.0％（R5）（R4：81.5％）と伸びた。また、実施機関あての訪問勧奨を行うことで、特定保健指導の実施体制見直しの要請と協力依頼を行った。被扶養者の特定保健指導については、協会主催集団健診（夏の健診）において当日実施を必須とすることとし、実施率向上につながった。 【今後の対策】 ・直営と外部委託の実施分について、それぞれのアプローチ方法を検討の上、エビデンスに基づいた働きかけを行う。（直営体制の見直し、ICT遠隔面談の拡大等） ・訪問や電話勧奨のほか、本部作成の好事例集を活用した事業所の受け入れ体制拡大への働きかけを行い、実施率向上を目指す。 ・被扶養者においては、引き続き集団健診当日の特保実施を行い、実施率向上を目指す。									
	R 7										
	R 8										
	R 9										
	R 10										
	R 11										
地域・職域における疾患・検査値・生活習慣等を踏まえ、どのような対象者にどのようなアプローチを行うか											
No.	指　　—　　1	ア プ ロ ー チ 方 法	ハイリスクアプローチ	実施年度 （期間）	R6年度　　～　　R11年度						
取組名称	血圧リスクに着目した特定保健指導の実施			評価指標	血圧リスク保有者の割合						
				目標値	男性　52.8% 女性　34.2%	R 6 54.4% 36.5%	R 7 54.1% 36.0%	R 8 53.8% 35.5%	R 9 53.5% 35.0%	R 10 53.2% 34.6%	R 11 52.8% 34.2%
					実績						
取組の目的 及び具体策	R6年度中に血圧リスクの改善に資する共通資材の活用方法等について支部内研修にて検討を行い、R7年度には試行的に協会直営で行う特定保健指導で実施する。R8年度に見直しを図り、R9年度以降委託機関向けに実施事例の展開を合同研修会で行之、委託機関でも協会同様の指導ができるよう支援を実施する。										
要 因 の 検 証 策・ 今 後 の	R 6	【要因検証】 直営の保健指導者による質の高い特定保健指導の実施を目指し、支部内研修において「知識」「傾聴」「伝え方」「提案」を取り入れた研修会を計画・開催。知識においては、各々が「高血圧」について学んだ内容を発表する相互学習の機会とした。傾聴・伝え方においては、新たな手法としてリフレクションを用いた学習を行い、学びにつなげることができた。また、アンケートを研修会前後で行い、知識醸成等の効果検証を行うことができた。 【今後の対策】 今年度最終の研修会では「提案」をテーマとしており、今年度学んだ高血圧の内容や伝え方を生かしつつ、効果的な提案についてロールプレイを用いて学習し、実践につなげる。									
	R 7										
	R 8										
	R 9										
	R 10										
	R 11										

No.		指	－	2	アプローチ 方法		実施年度 (期間)	～						
取組名称							評価指標							
							目標値		R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11
							実績							
取組の目的 及び具体策														
要 因 ・ 検 証 ・ 後 の 対 策 ・ 今 後	R 6													
	R 7													
	R 8													
	R 9													
	R 10													
	R 11													

重症化予防												
K P I ①		未治療者への受診勧奨による医療機関受診率			目標値	各年度の K P I	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11
							対前年度以上					
									実績			
要因 後の検証策・	R 6	【要因検証】 ・福井県糖尿病性腎症重症化予防プログラムによる受診勧奨に際して、実施方法の見直しと、関係団体への適切な働きかけ、協力要請を行うことができた。（県・市医師会、他関係団体） ・未治療者受診勧奨（0次勧奨）においては、健診機関へのアナウンスと具体的な介入に向けたデータ分析を行った。 【今後の対策】 ・令和6年度のデータ分析と効果検証を行い、継続的かつ効果的な事業推進と医療機関受診率向上を目指す。 ・効果的な0次勧奨計画を策定し、モデル実施を行う。										
	R 7											
	R 8											
	R 9											
	R 10											
	R 11											
地域・職域における疾患・検査値・生活習慣等を踏まえ、どのような対象者にどのようなアプローチを行うか												
No.	重	1	アプローチ 方法	ハイリスクアプローチ	実施年度 (期間)	R6年度 ～ R11年度						
取組名称	糖尿病・慢性腎臓病の未受診者・治療中断者への医療機関受診勧奨				評価指標	受診勧奨者の医療機関受診率						
					目標値	対前年度以上	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11
							10.0%	対前年度以上	対前年度以上	対前年度以上	対前年度以上	対前年度以上
				実績								
取組の目的 及び具体策		福井県糖尿病性腎症重症化予防プログラムに定められた基準に則り受診勧奨対象者を抽出し、文書等により受診勧奨を実施する。										
要因 後の検証策・	R 6	【要因検証】 福井県糖尿病性腎症重症化予防プログラムに基づく勧奨において、今年度は特定保健指導は実施せず、文書による受診勧奨に特化した事業内容に見直しを行った。また、回答書についても回答内容の簡略化を図り、委託費用の削減につなげた。 【今後の対策】 回答内容を収集・分析のうえ効果検証を行い、継続的かつ効果的な事業推進と医療機関受診率向上を目指す。										
	R 7											
	R 8											
	R 9											
	R 10											
	R 11											

No.		重　　－　　2	アプローチ 方法	ハイリスクアプローチ	実施年度 (期間)	R6年度　　～　　R9年度						
取組名称		健診実施機関による受診勧奨域者への受診勧奨（0次勧奨）の実施強化			評価指標	健診後3か月内受診率						
					目標値	対前年度以上	R 6	R 7	R 8	R 9	R10	R11
					実績		対前年度以上	対前年度以上	対前年度以上	対前年度以上	対前年度以上	対前年度以上
取組の目的 及び具体策		R6年度は健診当日または健診結果通知時における健診機関による受診勧奨の積極的实施を依頼し、健診機関ごとの受診勧奨領域者等のデータ分析を行う。R7年度は、R6年度の分析データ等を用いて、健診機関と連携し、モデル事業として0次勧奨を実施する。効果検証の上、R8年度以降、事業の横展開を行い、健診後3か月内受診率の向上を図る。										
要 因 の 検 証 ・ 今 後	R 6	【要因検証】 ・県内生活習慣病予防健診の健診説明会の場において、健診機関による受診勧奨の積極的实施の協力要請を行った。 ・健診機関ごとの受診勧奨領域者の人数等、データ分析による現状把握を行った。 【今後の対策】 健診機関における0次勧奨の実施に向けて、R7年度は試験的な実施とし、実施計画の策定を行う。データ分析のもと、モデル実施に適した健診機関を選定し、働きかけを行う。										
	R 7											
	R 8											
	R 9											
	R10											
	R11											
No.		重　　－　　3	アプローチ 方法	ハイリスクアプローチ	実施年度 (期間)	R6年度　　～　　R11年度						
取組名称		糖尿病治療者への歯科受診勧奨			評価指標	勧奨実施後の歯科受診者数						
					目標値	対前年度以上	R 6	R 7	R 8	R 9	R10	R11
					実績		10.0%	対前年度以上	対前年度以上	対前年度以上	対前年度以上	対前年度以上
取組の目的 及び具体策		糖尿病治療者で、レセプトから歯科受診が確認できない加入者に対し、歯科健診等受診勧奨を行う。										
要 因 の 検 証 ・ 今 後	R 6	【要因検証】 上期は、令和4年度に健診を受け糖尿病薬を服薬中の者であって、歯科レセプトがない者1,598人に歯科受診勧奨のはがきを送付。 【今後の対策】 上期に送付した者のレセプトを確認し、受診が確認できない者に対して再度勧奨を行う。										
	R 7											
	R 8											
	R 9											
	R10											
	R11											

コラボヘルス													
K P I ①		宣言事業所数	目標値		各年度の K P I	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11		
						1,550							
			実績										
要因の検証策・ 今後の対策・	R 6	【要因検証】 ・上期の宣言事業所は、49件の増であった。 ・覚書締結業者との連携や、健康測定機器を活用した広報による獲得が主な要因であった。 【今後の対策】 小規模事業所の健康保険委員あてに好事例集及び事業所カルテを活用し、健康宣言の案内を送付することにより目標達成を目指す。											
	R 7												
	R 8												
	R 9												
	R 10												
	R 11												
地域・職域における疾患・検査値・生活習慣等を踏まえ、どのような対象者にどのようなアプローチを行うか													
No.	コ	ー	1	アプローチ 方法	ポピュレーションアプローチ	実施年度 (期間)	R6年度 ～ R11年度						
取組名称	事業所への効果的なサポートメニューの提供 (生活習慣病予防講座、健康づくりポスターの提供、自治体との連携強化、好事例の横展開、健康測定機器の貸し出し等)					評価指標	事業所カルテの血圧リスク保有率の比較						
						目標値	血圧リスク保有率 対前年度以下	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11
						実績		-	対前年度以下	対前年度以下	対前年度以下	対前年度以下	対前年度以下
取組の目的 及び具体策		事業所に対し血圧リスク保有率の改善に向けて積極的に取り組めるようなサポートメニューを提供する（生活習慣病予防講座、健康づくりポスターの提供、自治体との連携強化、好事例の横展開、健康測定機器の貸し出し等）。											
要因の検証策・ 今後の対策・	R 6	【要因検証】 上期はサポートメニューを提供できる環境を整備した。令和6年度より新たに自治体との連携強化のための幹部による訪問、好事例集の作成等に取り組んだ。 【今後の対策】 福井支部の健康課題のテーマごとに好事例集を作成し、更なる健康づくりの取組サポートを充実させるとともに好事例集をきっかけとした健康づくり宣言事業所の拡大を図る。なお、健康課題が異なる事業所もあることから、中長期的に複数の課題に沿った計画として実施するものとする。											
	R 7												
	R 8												
	R 9												
	R 10												
	R 11												

No.		コ	ー	2	アプローチ 方法	ポピュレーションアプローチ	実施年度 (期間)	R6年度		～	R11年度				
取組名称		事業所での歯科講習会の実施					評価指標	講習会後の歯科受診率							
							目標値	対前年度以上	R 6	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	
									10.0%	対前年度以上	対前年度以上	対前年度以上	対前年度以上	対前年度以上	
							実績								
取組の目的 及び具体策		「歯周病と糖尿病の関連性」と「歯科健診の重要性」について周知を図り、定期的な歯科受診に繋げるため「歯と健康」講習会を実施する。													
要 因 の 検 証 ・ 今 後 の 対 策	R 6	【要因検証】 福井県歯科医師会との連携事業として、昨年度に引き続き歯科講習会を実施した。メルマガや納入告知書チラシや健康保険委員広報誌等を活用し、広報を行ったが、実施件数は2件（枠10件）に留まっており、事業所アンケートの結果を見ても事業所が進める健康づくりにおいて優先度が低いことが要因と考えられる。 【今後の対策】 歯科健診の重要性について、イメージをしてもらいやすいように「歯科講習会」から「歯と健康」にタイトルを変更し広報を工夫し、事業所への興味を抱きやすいようにするとともに、広報媒体を追加することにより勧奨の強化を図り、「歯と健康」の講習会の実施件数増加を目指す。													
	R 7														
	R 8														
	R 9														
	R 10														
	R 11														